

気象庁海洋気象観測船“凌風丸”引渡

ジャパン マリンユナイテッド株式会社(本社：神奈川県横浜市、社長：灘 信之)は、3 月 1 日(金)、横浜事業所(神奈川県横浜市磯子区)にて気象庁向けに建造していた海洋気象観測船“凌風丸”を引渡しました。

“凌風丸”は、1937 年に JMU の前身である旧播磨造船所で初代“凌風丸”を建造して以来、2 代目・3代目を旧石川島播磨重工業(現 IHI) 東京第一工場で建造した、JMU にゆかりのある海洋気象観測船です。

本船は、地球規模の気候変動の実態把握のための海洋観測や、豪雨災害対策の中でも課題になっている“線状降水帯”の予測精度向上のための洋上における気象観測・監視を実施することで、気候変動に関する最新の知見の提供や防災・減災に貢献していきます。



【主要目】

全長	85.63m
幅	14.00m
総トン数（国際）	2,373

【特長】

・線状降水帯等による大雨の監視・予測能力の維持・向上に寄与するため、船舶 GNSS（衛星測位システム）による水蒸気観測や高層気象観測等を行います。

・地球規模の気候変動の実態把握や海洋環境の監視を行うため、海洋の表面から深層に至るまでの水温や塩分、海流などの海洋観測を行うとともに、洋上および海水中の二酸化炭素など地球温暖化の原因とされる温室効果ガスの濃度の観測を行います。